

東京都庁で出前講座を開催しました

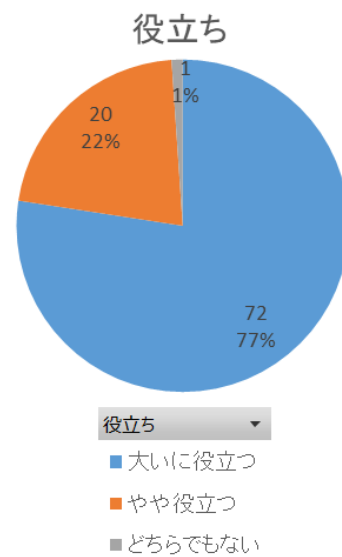
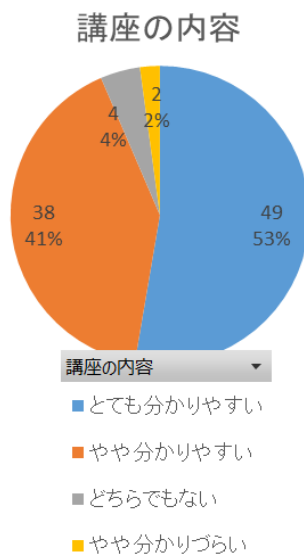
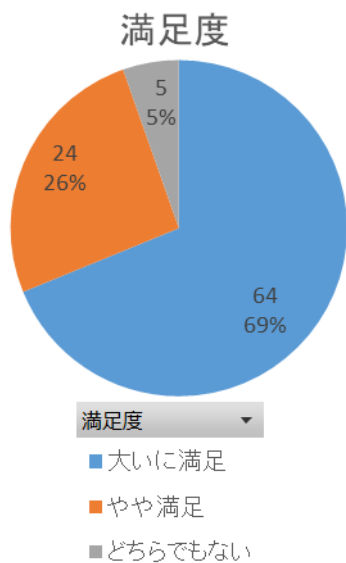
令和6年1月24日（水）に東京都庁第二本庁舎にて、東日本大震災からの復旧・復興や災害に強いまちづくりに関する出前講座を開催しました。また同日、東京都都市整備局職員の方々と「TOKYO 強靱化プロジェクト」に係る意見交換を行い、宮城県および東京都双方の土木政策に関して情報共有を行いました。

東日本大震災からの復旧・復興事業に関して、東京都から宮城県へは数多くの職員を派遣していただきました。本出前講座には、こうした派遣経験者を含め、会場・オンライン合わせて244名の方に参加いただきました。また、講義後には様々な質問が挙げられるなど、宮城県の復旧・復興に対する関心の高さがうかがえました。

出前講座の状況



アンケート結果



回収数:93

記述回答（一部抜粋）

- ・災害時の初動対応や技術職員としてどのようなことに取り組めば良いかなどについて学ぶことができ、大変勉強になった。
- ・能登でも大きな地震が発生した状況であり、東京でもいつ起きてもおかしくない状況のなか、改めて、東日本大震災のことを思い返すことで意識向上に役立ったと思う。
- ・首都直下地震や南海トラフ地震が切迫するなか、耐震、耐津波の整備方針、考え方など理解が深まり、今後の業務の参考になる内容であった。
- ・土木技術職として、どのように復興に向けたインフラ整備をしていかなければならないのか、とても大きな話でした。いつかその時が来た時に、きちんと考えられるよう、日頃から東京のまちをよく見て知っていかなければならないと感じました。
- ・一般に公表されているだけでなく、携わった職員だからこそ、知っている細かい情報や、地震の揺れなど、詳細に話を聞けたから（内容がとても分かりやすかった）。また、能登地震との比較が大変わかりやすかった。
- ・私は事務職なので、技術的な説明など分からない部分はあったが、それでも、実際に震災と復興を経験された方のお話の重みは十分伝わってきて、最後まで興味深く聞かせていただいた。また、実際に東京で災害となれば、事務職も技術職も共に対応に当たるので、土木の方々がどのように復興事業に携わられたのかを知ることができたのは有意義だった。

etc...



明日につなぐ×ミヤギの未来

